RITSUMEIKAN UNIVERSITY

第26回イグノーベル賞 知覚賞受賞

文学部東山篤規教授
「股のぞき」受賞記念講演会

2016
10/20
THU
16:30-17:50
［ 開場 16:00- ］

会場 **立命館大学衣笠キャンパス以学館2号ホール**

参加費無料・申込不要 (先着順:定員480名)

立命館大学文学部の東山篤規教授が、「光学的・身体的変換視野の効果(股のぞき効果)」に関する研究で、第26回イグノーベル賞知覚賞を受賞いたしました。
イグノーベル賞は、人々を笑わせ、そして考えさせる業績を称える賞です。同賞は並外れたものを祝福し、想像力を賞賛し、人々の科学、機械、テクノロジーへの関心を刺激するために制定されました。今年で26回目を迎えており、日本人の受賞は10年連続となります。
東山教授は「触覚と痛み」と「空間知覚」を研究テーマに、人間の感覚・知覚に関する研究を行ってきました。今回の受賞は、「股のぞき」によって視野と上体を逆さまにすると、視野が平面的に見え、とくに遠くの物が小さく接近して見えるという現象の解明が対象となっています。この現象の代表的な事例として、京都府の『天の橋立』で砂嘴(さし)を股のぞきしてみると、砂嘴が橋のように空にかかっているように見えることが挙げられます。実験によって、これは網膜像の上下ではなく上体の上下の逆転が原因で視覚世界が変化することによって生じることがわかりました。
今回、東山教授のイグノーベル賞受賞を記念して、公開講演会を開催いたします。誰もしない、面白いと思う研究を続けてこられた東山教授の講演会を是非、ご覧ください。

〈東山教授のコメント〉
今回の受賞を通じて、アメリカの学問の懐の深さを感じました。こういう浮世離れの感がする研究を真剣に取り上げ、評価してくれたことをうれしく思います。若い学生・研究者は、誰もしないこと、自分が面白いと思うことを研究してほしい。そして、この賞が、そうした研究の励みになることを願っています。また、今回の受賞を通じて、研究成果を英語で海外に発信する重要性を再認識しました。

主催:立命館大学文学部／協力:認知科学研究センター
記念講演会についてのお問い合わせ先 ｜ 立命館大学文学部事務室 TEL: 075-465-8187 http://www.ritsumei.ac.jp/lt/